

たろや

第一回音樂演奏會御案内

一分間に何千回と廻轉する機械の音や、鋸齒を削るバイトの軌る音のみが、勞働者の聞く音樂でない。あの恐ろしい騒動の様な、あの恐ろしい骨を削る様な、残忍な音のみ聞て陰鬱な工場の中に立てられた勞働者よ、君等の消い體は、雜音と悪息との爲めに荒み果てたであらう、君等の奪い肉は、長時間と過度の勞働の爲めに疲勞したであらう、體は枯れ、肉は落し、暗き影たまたよ人々が工場に機械のハンドルを握つて働いて居る——頭は痛む、氣分が妙に悪い——そうした時、無意識に口から聲が出る、それが歌だ。

打ち消さるゝとしても意地悪く、こびり附て離れない勞働者の頭の中に湧てくる雜念——現實の苦惱——

この苦惱の中から一時でも脱したい。それには歌が、音樂がある互に歌ひ舞する時、夢の様な詩境に酔ふ時、苦惱と困惑との外に無き地上の生活の中に、甘き美酒の如き法悦の慰藉を地へるのは何か？

ショウの脚本「人と超人」との中に、その登場人物の一人が勞働者に音樂趣味普及の必要を説いて居るそうだが、確に勞働者に音樂は必要である。私達は、こんな意味からして、勞働者に音樂趣味を普及したい。

ブルジョアの占有であつた音樂や、其他の藝術を、何日迄でもブルジョアの占有にして置く事を許さない、文化的生活に入らんとする勞働者よ、新しい吾々の音樂を生め、新しい、吾々の藝術を生め、

磨けられし天才は醒めよ、獨り藝術はブルジョアのオモチャではない。吾々の藝術は道樂ではない。

吾々の絶叫して止まざるは、新興無産階級の革命音樂——革命藝術——を一日も早く見ることである。

進め、進め、勇ましい樂の音と共に——凡ては藝術化するまで

こんな事からチョイと、音樂會だの、勞働者創作委員會だのをやりたいと思つて居る、その第一歩として第一回音樂會を開催したが、準備もななく初めての事でもあり、諸君の期待に反するかも知れぬが、精々御聲援を願ひ度いのです。

大正九年六月十六日 主催 友愛會芝浦支部

一、第一回友愛會音樂演奏會

一、時 日 大正九年六月十九日午後五時三十分開演

一、會 場 友愛會本館三階ヲ

【プログラムは別にあります】

満員になるとはいれませんが御早く御出で下さい